

【会員通信】

「小田川の魚図鑑」と「肱川上流の魚図鑑」 を発行

松田久司・辻 幸一

私たちは、2009年から肱川支流の小田川と本流上流で魚類を採集して、その結果をまとめた小冊子「小田川の魚図鑑」(図1;松田・辻, 2017)と「肱川上流の魚図鑑」(図2;松田・辻, 2021)を作成したので、そのいきさつや内容を紹介したい。

NPO 法人かわうそ復活プロジェクトの事務局を担当している松田は、地域の自然環境を保全する活動の一環として、愛媛県の生物図鑑やガ

イドブックの冊子を発行する活動を続けている。これは、身近な生きものを見分ける道具となる地域限定の図鑑を少しずつ整備していくことで、地域の方が出会った生きものの名前を知ることができ、よりその生きものに親しみが持てるとの考えからである。現在までに「八幡浜の川の魚図鑑」(松田, 2010), 「南予の鳥の図鑑」(松田, 2012), 「愛媛県南予地方川虫ハンドブック」(松田ほか, 2014), 「改訂八幡浜の川の



図1. 「小田川の魚図鑑」表紙



図2. 「肱川上流の魚図鑑」表紙

魚図鑑」(松田, 2015), 「愛媛の鳥図鑑山野編」(松田, 2018)を発行している。辻は, 1977 年頃から肱川で魚類の採集や観察を継続して行っている。私たちは毎年 7 月に内子町で開催されている「元気わくわく川まつり」(元気わくわく川まつり実行委員会主催)の展示ブースを任されていて, 辻が「小田川の魚」, 松田が「水生昆虫の観察」を担当していた。松田が八幡浜市の千丈川でハゼ科魚類を採集し, 実行委員会事務局を通じて辻に同定を依頼したことがきっかけとなって, かろうそ復活プロジェクトが行っていた千丈川の魚の調査に辻が参加するようになった。調査成果をまとめた「八幡浜の川の魚図鑑」とその改訂版を発行した後, 私たちが関係している小田川の魚類を扱った「小田川の魚図鑑」の発行が企画された。早速, 肱川最大の支流である小田川の全流域を対象に, 魚類を採集して種名を確認する作業が始まった。使う漁具はたも網と投網だけで, 遊泳力の強い魚や深みにいる魚は捕まえにくかったが, 釣りが趣味のかろうそ復活プロジェクトの会員に協力を得たり, 地元漁協の組合員が仕掛けたカニかごに入った魚の写真を撮らせてもらったりして, 種類数を増やしていった。2017 年に調査結果をまとめた「小田川の魚図鑑」が完成した。さらに, 私たちの調査対象は肱川本流の上流部にも広がり, 鹿野川ダムより上流の魚についても採集を続けることになった。その矢先, 2018 年 7 月の西日本豪雨災害で肱川上流域は甚大な被害を受けた。水害直後の野村町の河岸はひどい状況で, その後に河床掘削も行われ, 魚類採集どころではなかったが, 被害の少ない上流の宇和町から採集を継続し, 当初の予定より遅れながらも 2021 年に「肱川上流の魚図鑑」を完成させた。採集した時点で外観から判断の難しい個体も多くあり, 特によく似たヨシノボリ類 2 種, オオヨシノボリとオウミヨシノボリの小型個体での区別に苦労した(図 3)。私たちの分担としては, 両図鑑ともに魚の写真を松田が撮影, 種名の特定(同定)を辻が担当, 解説とコラムは 2 人で執筆した。

「小田川の魚図鑑」は全 60 ページで, 5 目 12 科 29 種の淡水魚類を掲載した。小田川にはダムが無いので, ニホンウナギ, アユ, シマヨシノボリ, オオヨシノボリ, ヌマチチブなど海と川を回

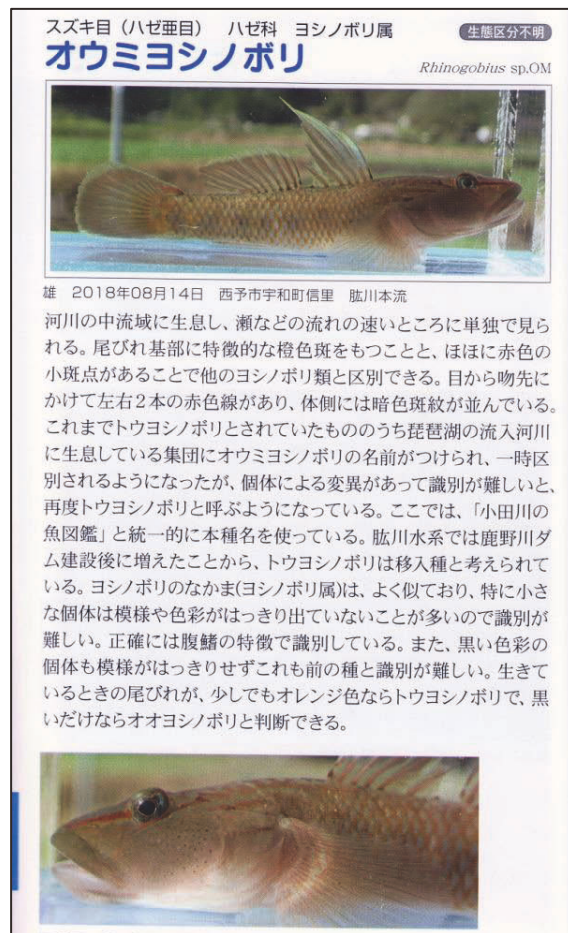


図 3. 肱川上流の魚図鑑「オウミヨシノボリ」の解説ページ

遊する魚種が多く見られた。カワムツ, タカハヤ, タモロコ, ナマズ, ミナミメダカ, ドンコ, カワヨシノボリなどの在来の純淡水魚も豊富であった。希少種として, ヒナインドジョウとアカザ(図 4)を確認した。ヒナインドジョウは小田川の 3 支流で生息が確認できた。アカザは小田川の上流域では広く分布しているが, 数は少なかった。国外外来魚としては, オオクチバスとブルーギルの 2 種が内子町のため池で多く見られた。国内外来種として, オイカワ, カマツカ, ギギ, ウキゴリ, オウミヨシノボリなどを確認した。これらはアユの種苗に混入して国内の他水域から侵入したと考えられている。魚種の紹介とともにコラムを 6 テーマ掲載し, コイの放流(図 5)や外来種の問題点などについて解説した。

「肱川上流の魚図鑑」は全 56 ページで, 5 目 11 科 25 種の淡水魚類を掲載した。鹿野川ダムより上流は, 2 つのダムにより魚類の移動が妨



図 4. 小田川の魚図鑑「アカザ」の解説ページ

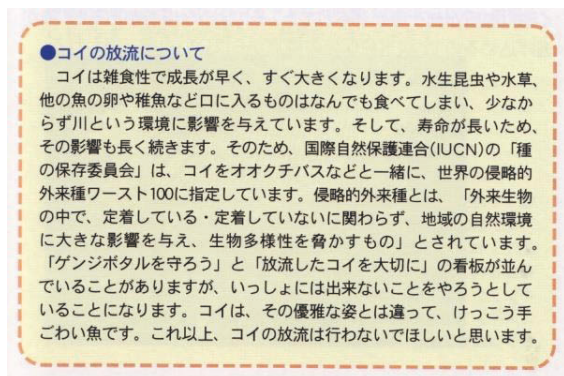


図 5. 小田川の魚図鑑 コラム「コイの放流について」

げられているため、回遊性の重要な水産資源であるニホンウナギとアユは漁協による放流種苗に依存しており、2020年にはニホンウナギ150kg、アユ700kgが放流されていた。また、ダム建設により創出された広大な止水域（ダム湖）には、ゲンゴロウブナやコイなどが、流入河川にはワカサギ卵が放流されており、こうした放流魚に混入してきたと考えられるイチモンジタナゴやビワヒガイなど、国内外来種の種数が多く認められた。国外外来種としては、オオクチバス

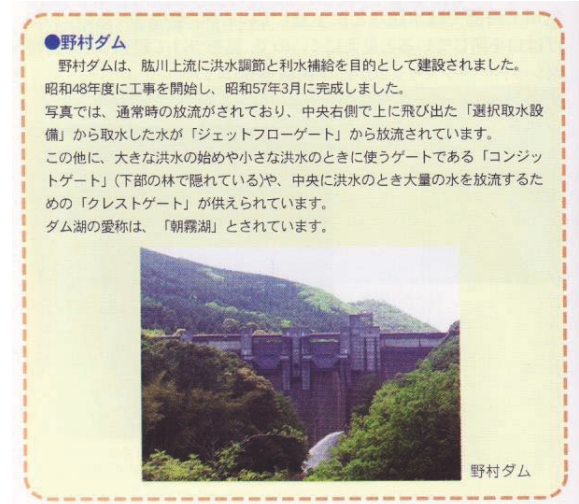


図 6. 肱川上流の魚図鑑 コラム「野村ダム」

とブルーギルが2つのダム湖に多数生息していたほか、上流域にあたる宇和町ではタイリクバラタナゴが生息していることを確認した。コラムは10テーマに増やし、国土交通省による「河川水辺の国勢調査データベース」の紹介、鹿野川ダムと野村ダムの概要（図6）、ウナギ漁の「ジゴク漁」によるウナギの捕獲方法、魚の寄生虫などについて解説した。

どちらの図鑑も環境教育に役立てて欲しいと、流域の小学校・中学校・高等学校および図書館などに郵送して配付した。自治体については、「小田川の魚図鑑」は内子町役場、「肱川上流の魚図鑑」は西予市役所に必要部数を持参し、活用をお願いした。今後は下流域の情報も集め、肱川全流域の魚図鑑作成を目指していきたいと思っている。なお、この図鑑の作成には、かわうそ復活プロジェクトが三浦保愛基金の助成を受けている。

作成した2図鑑のうち、「肱川上流の魚図鑑」には残部がある（2021年7月末現在）。入手を希望する場合、メール（かわうそ復活プロジェクト e-mail: naturevoicecc@yahoo.co.jp）で連絡いただければ無料（郵送の場合は送料のみ）で配布できるので、この地域にお住まいの方にはぜひ活用をお願いしたい。

引用文献

松田久司. 2010. 八幡浜の川の魚図鑑. 特定非営利活動法人かわうそ復活プロジェクト, 愛媛. 61pp.

松田久司. 2012. 南予の鳥の図鑑. 特定非営利活動法人かわうそ復活プロジェクト, 愛媛. 207pp.

松田久司. 2015. 改訂八幡浜の川の魚図鑑. 特定非営利活動法人かわうそ復活プロジェクト, 愛媛. 70pp.

松田久司. 2018. 愛媛の鳥図鑑山野編. 特定非営利活動法人かわうそ復活プロジェクト, 愛媛. 192pp.

松田久司・辻 幸一. 2017. 小田川の魚図鑑. 特定非営利活動法人かわうそ復活プロジェクト, 愛媛. 60pp.

松田久司・辻 幸一. 2021. 肱川上流の魚図鑑. 特定非営利活動法人かわうそ復活プロジェクト, 愛媛. 56pp.

松田久司・山本栄治・河野一男. 2014. 愛媛県南予地

方川虫ハンドブック. 特定非営利活動法人かわうそ復活プロジェクト, 愛媛. 60pp.

南予生物 20 : 45-48 (2021 年 8 月 10 日受理)

松田久司 : 〒796-8039 愛媛県八幡浜市布喜川甲 595-15 (八代サイン工芸内) 特定非営利活動法人かわうそ復活プロジェクト

辻 幸一 : 〒795-0081 愛媛県大洲市菅田町菅田甲 1131-1

連絡先 : 松田久司 (e-mail : vzz02040@nifty.ne.jp)